

少人数指導ガイドライン



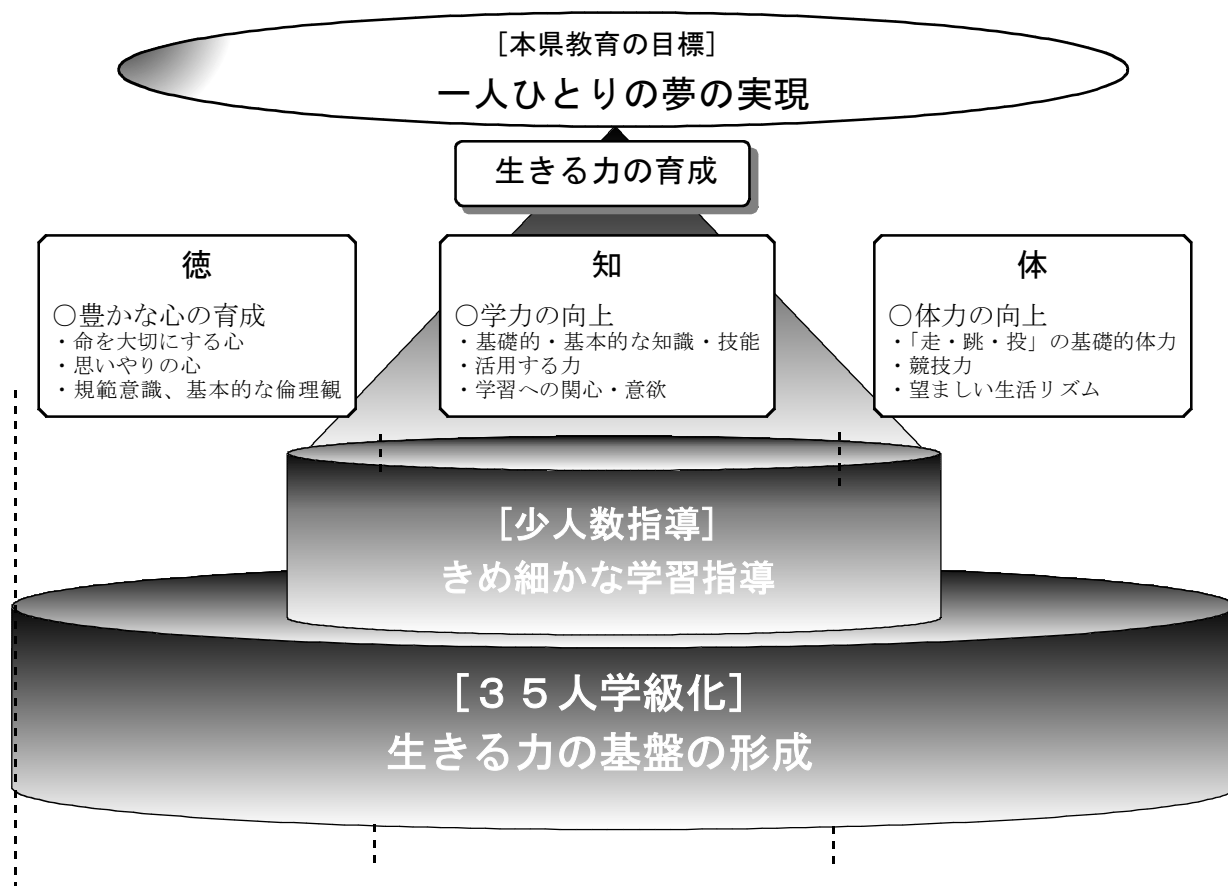
平成22年5月

山口県教育委員会

第1章 山口県の少人数教育

小・中学校における基本的な生活習慣や学習習慣の形成、学力の向上、生徒指導面での対応等の課題に対応するため、35人学級化の推進、少人数指導の実施などにより、子どもたちの状況に応じたきめ細かな指導体制を充実していきます。

1 本県の進める少人数教育のイメージ



2 「35人学級化」と「少人数指導」の目的

- 35人学級化**
- ◎学級の安定化
 - ◎コミュニケーション能力の向上
 - ◎学力の向上

- 学級集団の規模縮小によるきめ細かな指導の充実
- 児童生徒の実態・課題の把握
 - 児童生徒同士、教員と児童生徒との信頼関係の深化
 - 児童生徒の状況に応じた生活指導や学習指導の充実

- 少人数指導**
- ◎基礎的・基本的な学習内容の習得
 - ◎発展的な学習の充実
 - ◎学習意欲の向上

- 学習集団の規模縮小によるきめ細かな指導の充実
- 習熟度別等の学習集団の編成や学習形態の工夫
 - 少人数指導担当教員と担任（学年部）との連携による指導方法の工夫・改善

3 「35人学級化」へのこれまでの取組

	小学校				中学校	
	1年	2年	3・4年	5・6年	1年	2・3年
H1 2	補助教員配置 対象：36人以上学級	—	—	—	35人学級化	—
H1 3						
H1 4						
H1 5						
H1 6	補助教員配置 対象：36人以上学級	—	—	—	35人学級化	35人学級化 非常勤配置 常勤配置 開始
H1 7						
H1 8						
H1 9	補助教員配置 対象：2学級以下	—	—	—	—	—
H2 0						
H2 1	35人学級化 (廃止：2学級以下の補助教員)	—	—	—	—	—
H2 2						
			35人学級化			

4 平成22年度 きめ細かな指導体制の充実

校種	学年	きめ細かな指導体制			
小学校	1	35人学級化 (H21~)		やまぐち学校教育支援員活用促進事業 補	学力向上等支援員 (児童生徒支援加配 (学習指導・生徒指導))
	2				
	3	新 35人学級化			
	4	小学校3・4年において35人学級化を実施			
	5	35人学級化と少人数指導の弾力的運用			
	6				
中学校	1	35人学級化 (H14~)		非常勤講師配置 少人数教育推進	
	2	35人学級化 (H16~)			
	3	少人数指導加配を活用した常勤教員配置を促進			

補…県が市町に1/2を助成する補助事業

[少人数指導] 1学級の児童生徒数が、25人以上となる学級を対象に少人数指導を実施

第2章 少人数指導の充実のために

少人数指導を導入した学校からは、児童生徒の学習意欲の向上や学力の向上についての報告が数多くされています。少人数の学習集団を編成したり、複数の教員が授業をしたりすることが「きめ細かな指導」につながっていることの表れです。1人の教員が指導する児童生徒数が少なくなることが、指導の充実につながります。

ただ、指導方法が従来と変わらないのであれば、その成果が常に期待できるものではありません。学習形態や指導方法、学校としての指導体制について工夫し、少人数指導を充実させていくことが大切です。

1 指導形態・指導方法の工夫

(1) 指導形態の工夫をしましょう

学級・学年の実態や学習内容、学習のねらいに応じて、適切な指導形態を選択することがポイントです。さらに、それぞれの指導形態のよさを生かして、複数の指導形態を組み合わせることで、指導の効果を高めることができます。

①指導形態ごとのよさについて

【一斉指導】

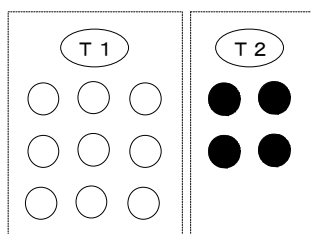
- ・学級全体で共通理解を図ったり、学習ルールを徹底したりする場合に適しています。
- ・多様な考えにふれ、思考の幅を広げることができます。

《TT指導》

- ・2人体制で指導するため、個々の子どもの理解度に応じた対応がしやすくなります。
- ・教員に相談しやすい環境をつくることができます。
- ・T1、T2の役割分担の仕方によって、多様な授業の進め方が可能です。

〈習熟度別指導〉

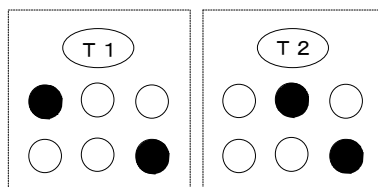
- ・子どもの状況に応じて、発展的な内容や補充的内容を取り上げやすくなります。
- ・一人ひとりの子どもが安心して学習に取り組むやすくなります。
- ・子どもが、達成感を得やすくなります。



学級・学年分割

〈課題別・単純分割などによる指導〉

- ・子どもと教師、子ども同士の活発なコミュニケーション場面をつくりやすくなります。
- ・子ども同士による教え合いが期待できます。
- ・学習規律やノート指導の徹底が行いやすくなります。



②指導形態の組み合わせパターンについて
パターンⅠ



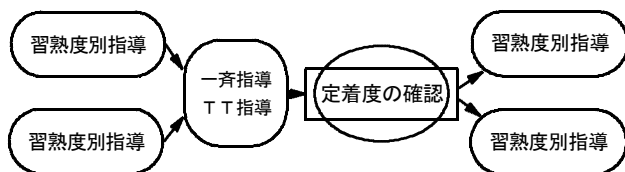
■ 一斉指導後、定着度に応じて習熟度別指導を行う場合です。学習のまとめを一人ひとりの課題に応じて行う場合に効果的です。補充的な課題や発展的な課題を取り上げやすくなります。

パターンⅡ



■ 少人数での主体的な活動後に、一斉指導を行う場合です。小グループでの話し合い活動や作業的な活動を重視した内容の場合、後半に全体指導を行うことが理解を深めることができます。

パターンⅢ



■ 習熟度別指導の間に一斉指導を仕組む場合です。その内容における一人ひとりの習熟度に柔軟に対応した指導が可能です。

例：小学校5年算数「三角形の面積」

3時間単元

学習内容	指導形態	T1/T2	授業の具体
三角形の面積の求め方の基礎概念づくり 1時間	TT (タイム・ティー・ツクウ)		
三角形の面積の公式を知り、面積を求める 1時間	学級担任による一斉指導		<p>「前の時間に勉強したことから、三角形の求め方が分かるね。」</p> <p>三角形の面積 = 底辺 × 高さ ÷ 2</p>
面積を求める問題を解く 1時間	習熟度別指導		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【すいすいコース】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ゆっくりコース】</p> </div> </div>

(2) 習熟度別指導～グループごとの指導方法を工夫しましょう～

習熟度別指導を実施する場合には、これまで以上に児童生徒一人ひとりの理解や習熟の程度を的確に把握することと、それぞれの児童生徒に応じた指導方法を工夫することがポイントです。

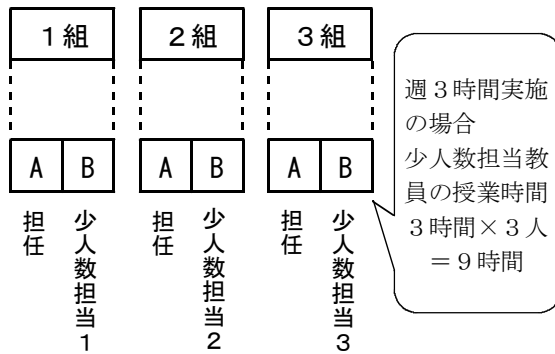
①「基礎・基本を中心に取り組むグループ」と「発展的な学習に取り組むグループ」の学習の流れ(例)

<p style="text-align: center;">基礎・基本を中心に 取り組むグループ</p> <p style="text-align: center;">＜基礎・基本の確実な定着＞</p>		<p style="text-align: center;">発展的な学習に 取り組むグループ</p> <p style="text-align: center;">＜問題解決能力の向上＞</p>
<p>○前時までの学習内容の<u>復習時間</u>の確保</p> <p style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">前時の自己評価をもとに、理解が不十分な点の再確認をしましょう。</p> <p>○自力解決できたという<u>成就感</u>を重視 つまずきへの<u>個別支援</u> <u>スモールステップ</u> <u>具体物の準備</u></p> <p style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">児童生徒の理解の程度の確認を常に意識することが大切です。</p> <p>○<u>教員の支援を得ながら発表</u>しあう場 ・児童生徒同士で<u>1対1での説明</u></p> <p>○本時の定着を図るための<u>補充的な課題</u></p> <p style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">「問題数を絞ること」「できたという実感をもたせること」が大切です。</p> <p>○<u>教員とともに</u>学習内容をまとめる ・児童生徒による自己評価 ・次時の導入のための資料</p>	<p>導入</p> <p>自力解決</p> <p>集団解決</p> <p>定着のための課題</p> <p>終末</p>	<p>○ポイントを絞った振り返り</p> <p style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">前時終末の児童生徒のまとめを活用するのも1つの方法です。</p> <p>○<u>試行錯誤</u>できる十分な時間の確保 解決のための<u>手段を自分で選択</u>できること</p> <p style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">課題に応じて、多様な発表形式を取り入れることが大切です。</p> <p>○児童生徒が<u>互いに自分の考えを発表</u>しあう場 ・グループ内での説明 ・全体の場での説明</p> <p>○本時の定着を図るための<u>発展的な課題</u></p> <p style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;">練習問題を数多く解かせるだけになっていませんか？</p> <p>○児童生徒が<u>自分の力で</u>まとめる ・児童生徒による自己評価 ・自らの課題の明確化</p>

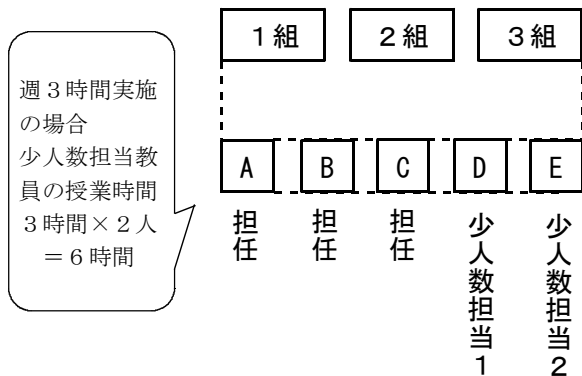
②習熟度別の学習集団編成の仕方

習熟度別指導を実施する場合、学級を分割するだけではなく、学年を分割することも少人数指導を充実させる一つの方法です。

学級分割をする場合（例）



学年分割をする場合（例）



- ・安定した集団の中での学習
- ・児童生徒の実態把握の容易さ
- ・学習指導と学級経営との連動
- ・学習の進め方や学習ルールの徹底

- ・児童生徒のコース選択の幅の広がり
- ・コースごとに習熟度に応じた指導
- ・学年間で児童生徒への共通理解の深まり

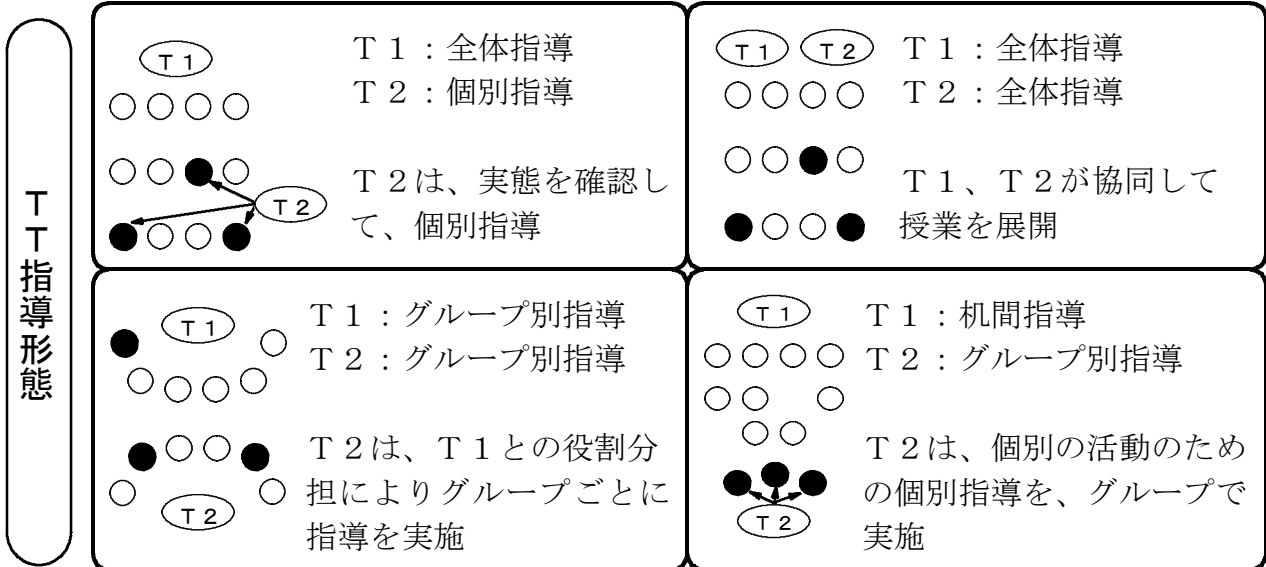
適切なコース選択のために

- ・コースの違いを明確にしておくこと
コースごとの学習の進め方とコースによってどの程度の既習事項の理解が必要なのかについて事前に説明しておくことが大切です。また、コースの選択の仕方によって成績が左右されないことも説明しておくことが必要です。
- ・選択の基準となる資料を準備すること
児童生徒が、プレテスト、評価テスト、自己評価シートなどのデータをもとにして、コース選択ができるようにすることが大切です。小学校であれば、保護者と相談できるだけの時間的なゆとりをもたせることが必要です。
- ・コース決定の意識を書き留める場面を作ること
どのコースをどのような思いで選択したのかを自分自身で記述するなど、主体的にコースを決定しているという意識をもてるようにすることが大切です。
- ・コース変更の機会を設けること
コース変更が可能となるよう授業の進め方を工夫するとともに、コースをいつ、どのように変更できるかを事前に伝えておくことが大切です。
- ・保護者への説明
少人数指導の授業公開をしたり、少人数指導の意義を保護者へ説明したりすることが必要です。

(3) T T 指導～T 2の指導方法を工夫しましょう～

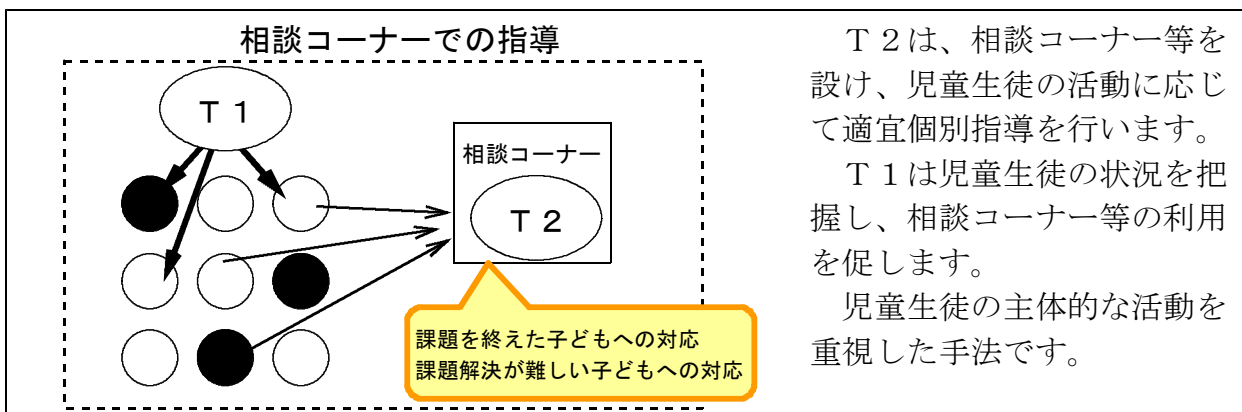
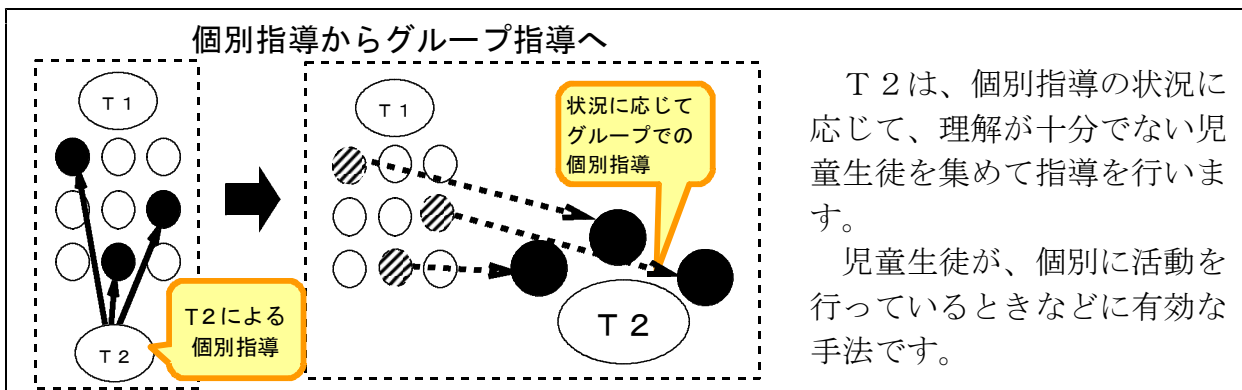
T 2の児童生徒へのかかわり方を工夫することによって、活動や学習内容に応じたきめ細かな指導を行うことができるようになります。

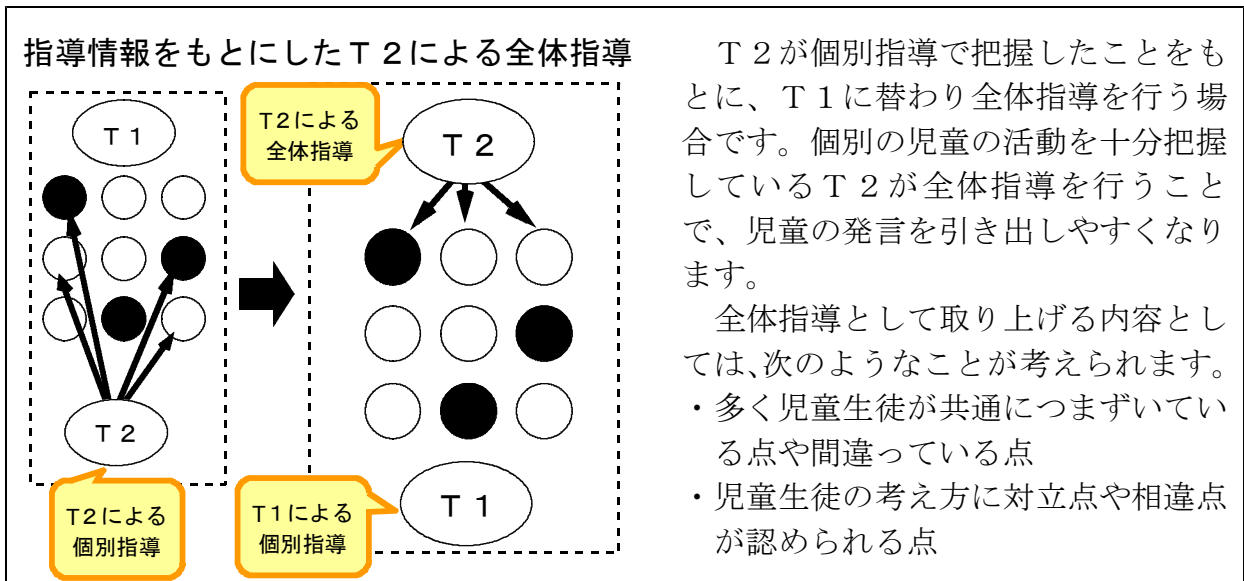
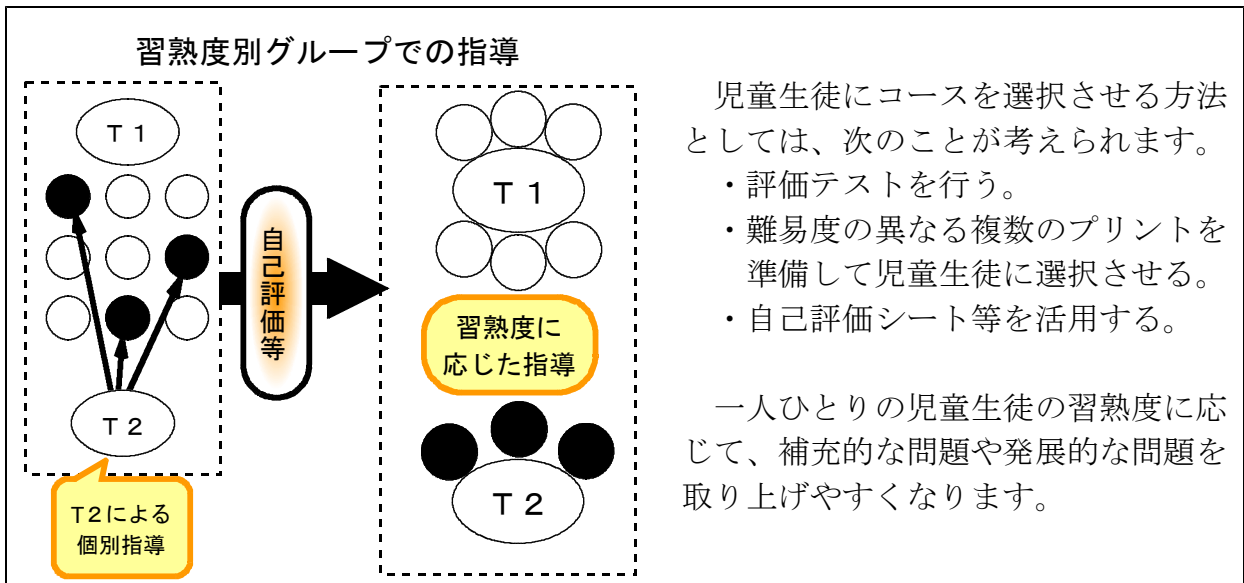
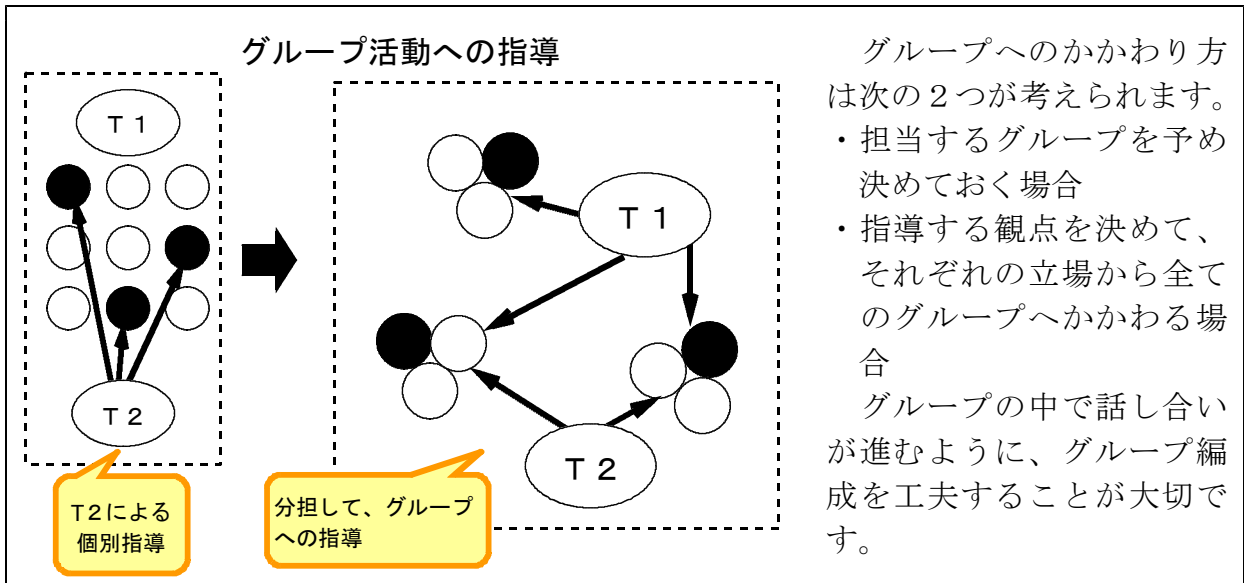
① T T 指導形態について



② T 2の個別指導からの動き

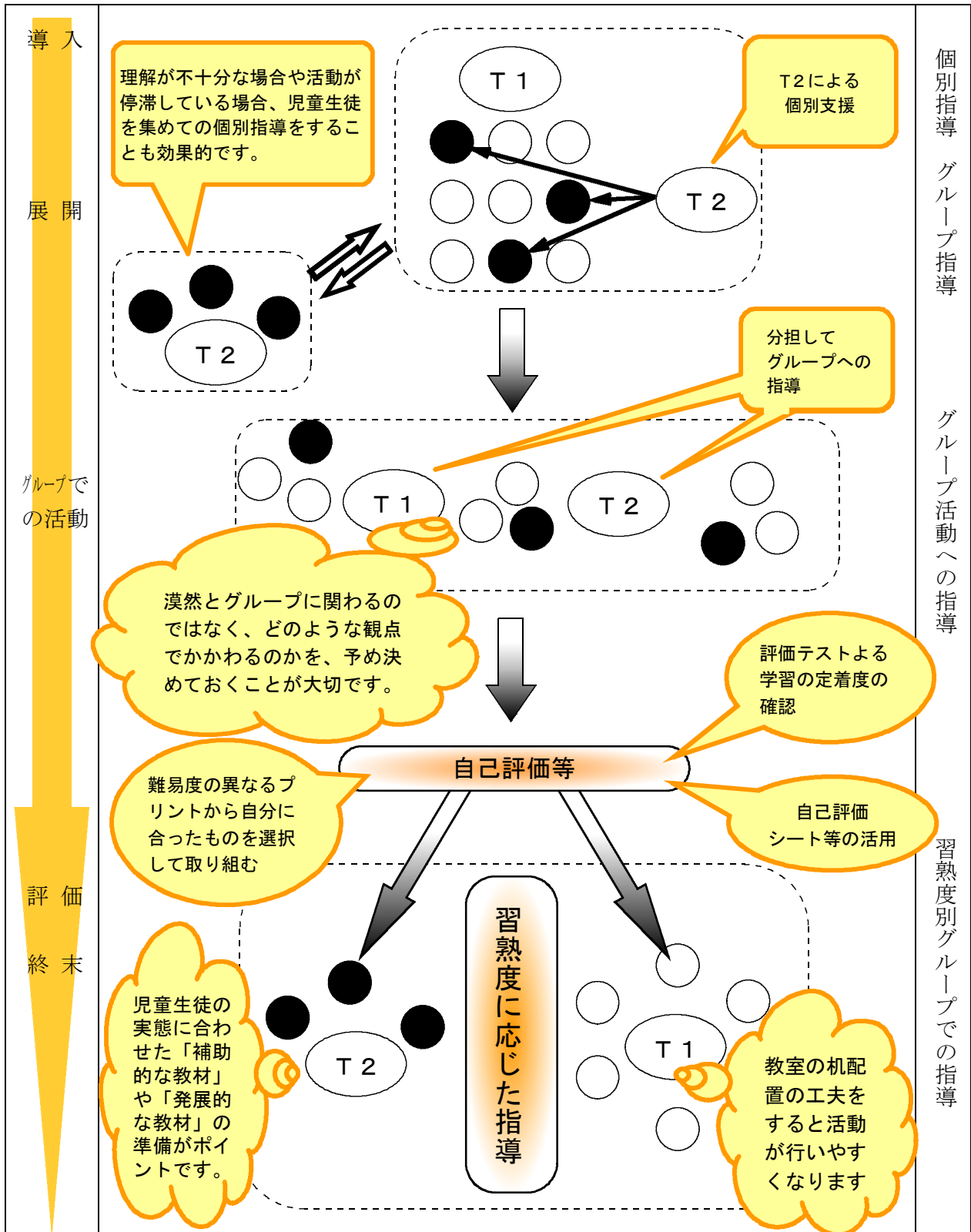
T T 指導の形態を、児童生徒の活動に応じて変化させることが大切です。





③ 1 単位時間における T T 指導（例）

1 単位時間の中においても、児童生徒の活動や学習内容に応じて、さまざまな指導形態をとることができます。その 1 単位時間の中で、T 1、T 2 がどのように役割を分担するかが大切です。



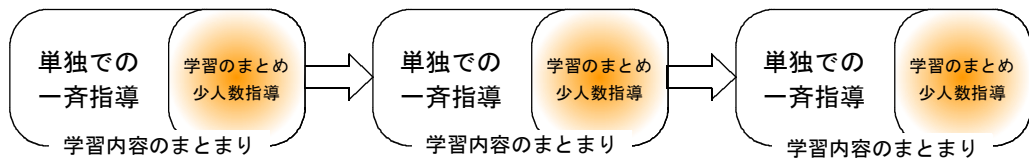
(4) 少人数指導をどの場面で行えば効果的か工夫しましょう

少人数指導担当者の時間割を固定的に考えず、児童生徒の実態や学習内容等に合わせて変更することがポイントです。

■学習のまとめごとに少人数指導を行う場合

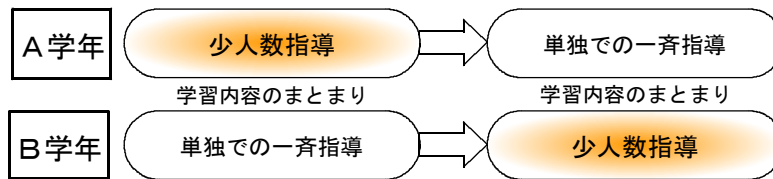
学習のまとめごとの復習の時間に少人数指導を行う場合です。児童生徒の理解の程度に応じて補充的な課題を扱ったり、発展的な課題を扱ったりすることが容易になります。

少人数指導で行う学習のまとめは、学習の直後だけではなく、しばらく時間をおいて行うことも考えられます。家庭学習等で児童生徒が復習する時間を確保することができます。



■習熟の程度に差がつきやすい学習内容において集中的に少人数指導を行う場合

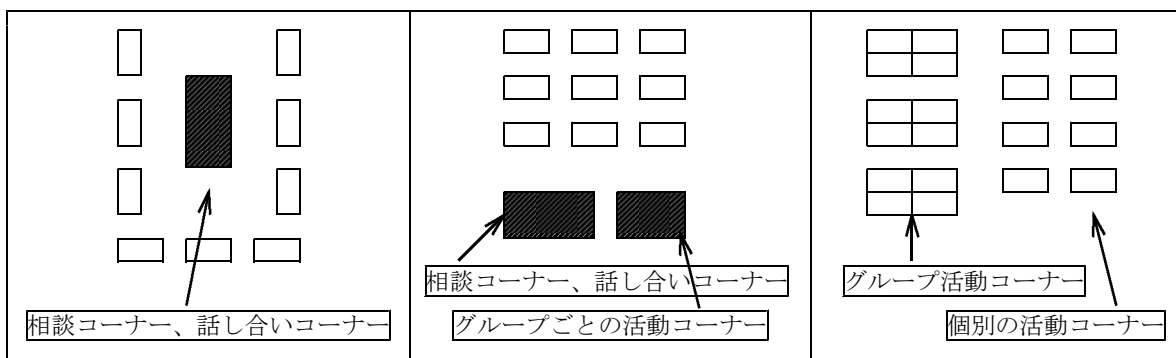
特定の学年・学級に一定期間、集中的に少人数指導を行うことも考えられます。(当然、少人数指導を行わない期間も生じることになります) 児童生徒の習熟の程度に差がつきやすい学習内容のときに効果的です。



教室の机配置の工夫を！

教室の机の配置を変えることで、教員の児童生徒へのかかわり方が変わってきます。これまでとは違った視点から児童生徒の活動を見ることができるようになります。

児童生徒も、友達とのかかわり方が変わるとともに、学習課題や学習方法の違いなどによって座る場所を変え、自分に合った学習を進めていくことができるようになります。



2 指導体制の充実

チェックリスト

指導の改善をめざして、取組を振り返ってみましょう

(1) 全校体制での取組をしましょう

少人数指導を効果的に進めるためには、学校全体で取り組むことが大切です。

- 少人数指導を担当する教員を明確にし、推進体制を整える。
- 児童生徒の学習状況を把握し、少人数指導を実施する教科、学年、時間等を明確にする。
- 効果的な少人数指導が実施できるよう年間の指導計画を立てる。
- 校内研修や学年研修等で、少人数指導の授業研究等も行い、指導方法の工夫について研修を深める。

(2) 少人数指導担当教員のリーダーシップを発揮しましょう

少人数指導担当教員と担任（学年部）とが共通理解し、役割を明確にすることが大切です。

少人数指導教員を中心に、事前の打ち合わせや授業後の情報交換等の機会を活用して、児童生徒の状況や課題に応じた指導方法の在り方について協議したり、指導計画の見直しを図ったりすることが大切です。

① 单元ごとの共通理解

- 単元の到達目標を明確にする。
- 指導計画（時間ごとの学習の進め方、指導のポイント等）を作成する。
- 学習評価の方法を工夫する。

② 役割の明確化

- 教材や教具を準備する。
- 補助資料や学習プリント等を準備する。
- 学習状況を把握する小テスト等を作成する。
- 学習を振り返る自己評価カード等を準備する。
- 家庭学習の課題プリントを準備する。

(3) 学習規律の確立を図りましょう

学習規律について共通理解し、指導の徹底を図ることが大切です。

①主体的な学習態度の育成

- 学習ルール（宿題、忘れ物ゼロ、教室や机の移動 等）を確認する。
- 児童生徒の興味関心に基づく学習課題を設定する。
- 児童生徒同士の学び合う場면을効果的に位置付ける。

②学習ノートの有効な活用

- 日付、問題、自分の考え、学習のまとめ等、記述する項目を確認する。
- 授業の終末等における振り返り等、記述内容を工夫する。

(4) 教員と児童生徒、児童生徒相互のコミュニケーションの充実を図りましょう

子どもたちが安心して学習に取り組める体制を整えることが大切です。

①いつでも質問できる雰囲気づくり

- 教師の説明や児童生徒の発表の後で、質問できる時間を確保する。
- 自分の意見や考え、質問をする理由等についても話すよう指導する。

②学習のコースや問題の選択

- 自分の興味関心や理解・習熟の程度に応じて、自分のペースで学習を進めることができるようにする。
- 児童生徒が主体的に選択できるよう、自己評価カードを活用したり、選択した理由を確認したりする。
- 自分で選択することが難しい場合には、教師と相談の上で選択できるようにする。

(5) 保護者へ情報提供をしましょう

学校の取組を保護者に情報提供し、共通理解を図ることが大切です。

- 「少人数指導だより」等を発行し、児童生徒の状況に応じたきめ細かな指導体制による取組を紹介する。
- 少人数指導の授業を参観日等で公開し、学校の取組について共通理解を図る。
- 授業参観後に保護者アンケートを実施し、少人数指導の成果や課題についての意見を収集し、その後の指導に生かす。